ライオンキング だいしょ
師子王御書

11月度の御書

「南条殿御返事」（法妙人貴の事）

御文

釈迦仏は「我を無量の珍宝をもって億劫の間供養せんよりは、末代の法華経の行者を一日なりとも供養せん功徳は百千万億倍過ぐべし」とこそ説かせ給いて候。

（御書新版1923ページ、御書全集1578ページ）

意味

釈尊は「私を、無量の珍宝をもって、億劫という果てしなく長い間、供養するよりも、末法の法華経の行者を、たとえ一日でも供養する功徳のほうが、百千万億倍も優れている」と説いておられます。

真心の行動が幸せの種になる

こんにちは！　ライオン博士のキング君だよ！　もう秋も深まり、冬の足音が聞こえてきたね。みんなはどんな秋を楽しんでいるかな？　秋といえば“読書の秋”！ということで今日は、ある昔話をしよう。「土のおもちを供養した徳勝童子」のお話だよ。供養とは、「ありがとうの気持ちを行動であらわすこと」だよ。

むかし、釈尊が修行をしていたころ、徳勝童子と無勝童子という二人の子どもがいました。釈尊は、初めて仏教を人々に教えた人です。二人の子どもは、釈尊のことが大好きで、とても尊敬していました。

二人が遊んでいると、ちょうど釈尊が通りかかりました。そこで徳勝童子は、土で作ったおもちを釈尊にささげました。そして無勝童子は、手を合わせてお祈りをしたのでした。

もちろん、土のおもちは食べられません。それでも釈尊は、徳勝童子が釈尊を尊敬する美しい真心を、とても喜びました。

そして「この子は将来、世界を治める立派な王になるでしょう」と語りました。

その後、釈尊の言葉通り、徳勝童子はアショーカ大王として生まれたと伝えられています。アショーカ大王はインドを統一し、人々の幸せや平和のために力を尽くした、とても有名な王さまになったのでした。

♣　♣　♣

人々の幸せのために勇気を持って行動する。そういう人を大切にすることは、自分自身の大きな幸せの種になると、日蓮大聖人は教えられているんだ。

今でいえば、世界中の人々の心に明るい光を照らし、笑顔にしようと行動してきた、創価学会の三代会長、そして世界中の創価学会のおじいちゃんやおばあちゃん、お父さんやお母さん、お兄さんやお姉さんたちのことだよ。そんな仏法を伝える人たちを応えんしたり、はげましたり、共に行動したりすることには、とても大きな功徳があるんだ。

池田先生は、こう呼びかけてくださったよ。「少年少女部のみなさんも、いつまでも『人のためにという心』『人を思いやる心』を持ち続けてください」と。

さあ、「ありがとう」の気持ちを行動であらわす真心の人に！　そして〝ししの子〟らしく成長し、世界に笑顔を広げていこう！